

バカ息子ォ！

かつて広島市民球場は、ホームベースと観客の距離が近く、痛烈なヤジが選手に丸聞こえだった。敵チームだけではなく、味方のチームである広島カープの選手にもヤジが飛ぶ。カクンとなるような、的確と言うか。そのため、広島市民球場での広島カープの成績は芳しくなかったと言う。

プロ野球のヤジはいろいろあるらしい。甲子園球場はホームベースと観客との距離はあるけれども、ダッグアウトに引き上げてくる選手とは距離が近くなる。巨人の王選手へのヤジ。王、おまえなんか高校しかでてないやろ、大学に行ってへんやろ！　うちの田淵なんか大学でてんねんど！・・・野球はあかんけろなあ。(誤植ではない。こんな訛りがある。)　まわりの客を笑わせてどうすんねん。

大阪の観客は直接的な表現を好む。かのプロ野球中興の祖長島茂雄さんの息子がプロ野球にいた。まあ、親父と常に比べられるから、評価は極めて不利になる。事実下手だった。そこに強烈なヤジが飛ぶ。「バカ息子ォ！」　さすがに能天気な一茂君もこたえたらしい。

江戸の昔から、「売り物と唐様で書く三代目」といわれるように、

創業者はともかく、苦勞をして会社を興す。二代目には、初代の社長の番頭さんなどがついているから、まあ安泰であるし、自分の親父の苦勞を目の当たりにしている。おぼろげながら覚えているから無茶はしないだろう。ところが三代目ともなると、先代・先々代の苦勞を知らない。物心がついたころには、「ボン」とか「坊ちゃん」などとチャホヤされるのが当然のようになる。いわば御曹司扱いで苦勞知らず。放蕩三昧になる可能性が高い。

最近有名になったのが、大王製紙の三代目。40歳を過ぎて博奕をおぼえたものだから、最初に1億円儲けたからと（これが相手を引きずり込む手口）、挙句の果てに100億円もの負けになってしまった。

「会社を潰す気か！」と組合から突き上げられるし、社員の勤勞意欲も奪ってしまう。日本中から非難の声があがる。警察沙汰にもなるし、存在価値の無い男とおもっていたら、じつはそうでもなかったらしい。日本中の、社長を息子に譲った人々を安心させたのである。「バカは、ウチの息子だけではなかった！」

もう10年以上前になるか、ワコールの社長が引退して息子に跡を譲ったら、息子が余計なことに手をだして、慌てて社長に返り咲い

たこともあった。

40歳過ぎて博奕を覚えると、まあ、歯止めが利かない。東京までヘリコプターをチャーターしてバカラに入れあげ、挙句先祖伝来の診療所ごと、家屋敷、土地にいたるまでぶっしゃげられた歯医者もいる。

こういう連中は、一種の性格破綻者で、禁治産者に指定すべきなのである。こんなのを見ていると、長嶋のバカ息子ォ！など可愛いものである。

三代目でなくてもパチンコにはまって、何百万円もの借金をつくるのがいる。なぜこんな連中に金を貸すのかといえば、つまりミナミの銀ちゃんではないが、取り立てる保証があるからである。

2012・05・05・